

# 令和7年度 横浜市 英語教育改善プラン

## 目標

「英語を活用しながら、あらゆる人々の多様性を尊重し、協働、共生できる人」の育成

- 言語活動
  指導と評価の一体化
  教師の英語力・指導力
  校種間連携
  ALTの参画
  ICTの活用
  AIの活用
  その他
- (パフォーマンステスト含む)
 (専科教員含む)
 (AIを除く)

### 1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

① 英語で進んでコミュニケーションを図りたいと思う児童の割合

R5 : 75.7%

⇒ R6 : 80.0%

「横浜市学力・学習状況調査、生活・学習意識調査より」

② 授業における言語活動の充実

未だ改善が必要な点

① 「AET(ALT)が近くにいることでコミュニケーションに対する意識が高まる」と答えた生徒の割合

(小6 : 73.5%)

(小5 : 75.5%)

「横浜市学力・学習状況調査、生活・学習意識調査より」

② 英語専科教員への体系的な研修の実施やその仕組みづくり

### 2. 要因分析

① 学校への訪問研修及び市・区の研究会と連携した授業改善による、言語活動中心の授業及びAETとのチームティーチングの推進

② 教員の言語活動への意識の高まりとチームティーチングの推進による授業改善

① 児童が「伝わった」喜びを実感できるよう、言語活動機会の充実やさらなる授業改善が必要。

② すべての英語専科教員がAETを十分に活用し、さらに言語活動中心の授業及びAETとのチームティーチングの推進を図れるよう、体系的な研修づくりを進める。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

○ グローバル社会で活躍できる人材の育成に資する外国語教育の推進

【新規および拡充】

全小学校で週5日、英語話者の英語に触れられる環境づくり

・AETの増員(40名)

・オンラインAETの開始

【継続】

・小学校1年生からの外国語活動の実施

・AETの全校配置

・専科教員配置の拡充(国からの加配に加え、本市が独自で行っているチーム学年経営を活用した専科教員の創出を推進)

・「生きた英語」に触れる機会の提供(英語村等)

・モデル校における英語イマージョン教育の実施

・フィールドワーク型国際交流事業(Yokohama English Quest)の実施(高学年)

参考URL : ( <https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/global/> )

○ ゴールを明確にした授業の推進

・small talkを推進し、目的・場面・状況等を踏まえた質の高いインプットを児童に十分行うことで、児童の自然な言語習得を目指す。

・児童が自身の学びを調整し、自立した学習者となるために見通しをもった学びとなるよう、引き続き研修を行うと同時に、好事例を発信する。

・子どもたちの「英語で伝えたい」という気持ちを大切に、言語活動後に「英語が伝わった時の喜び」を感じられ、それが次の「英語で伝えたい」という気持ちにつながるような授業を実施していく。

# 令和7年度 横浜市 英語教育改善プラン

「英語を活用しながら、あらゆる人々の多様性を尊重し、協働、共生できる人」の育成

○ CEFRA1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒数 R6 : 65.4% ⇒ R7 : 69%

## 目標

- 言語活動
  指導と評価の一体化
  教師の英語力・指導力
  校種間連携
  ALTの参画
  ICTの活用
  AIの活用
  その他 (AIを除く)

### 1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①英語で進んでコミュニケーションを図りたいと思う生徒の割合

R5:76.2%

⇒ R6:80.6%

「横浜市学力・学習状況調査、生活・学習意識調査より」

②授業における言語活動の充実

①CEFRA1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒数

R6目標:68%

⇒ 結果:65.4%

②「AET(ALT)が近くにいることでコミュニケーションに対する意識が高まる」と答えた生徒の割合

(中3 : 74.7%)

「横浜市学力・学習状況調査、生活・学習意識調査より」

### 2. 要因分析

①「自立的な学習者の育成」の視点に立った、学校への訪問研修及び市・区の研究会との連携による授業改善

②教員の言語活動への意識の高まりとチームティーチングの推進による授業改善

①英語運用能力の育成を目標とした  
・個々の生徒の達成状況の適切な把握  
・4技能5領域の総合的な育成に資する授業改善

②全校に常駐しているAETの活用率の向上と生徒が「伝わった」喜びを実感できるよう、言語活動の充実やさらなる授業改善が必要。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

○グローバル社会で活躍できる人材の育成に資する外国語教育の推進【新規】

・AIの活用による英語教育強化事業の活用（モデル校に導入）

【拡充】

・英語弁論大会上位入賞者のNY国連国際学校への体験留学  
グローバル社会で活躍できる人材の育成のため、学んだ英語を活用し、世界に目を向ける機会とする。R6 : 上位3名⇒R7 上位5名

【継続】

・英語を活用する機会の推進（SEPRo※、English Festival等）

※Super English Programの略。一つの学校に区内のALT 6人が集まり、1クラス6人体制でコミュニケーションを中心とした授業を行う。

・AETの全校配置

・外部指標（実用英語検定）の実施による生徒自身による学習改善と教員の指導改善

・フィールドワーク型国際交流事業（Yokohama English Quest）

・市内留学体験事業（はまっこ留学体験）

・国際スポーツ大会、会議等における英語を活用したボランティア

参考URL : (<https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/global/>)

○ゴールを明確にした授業の推進

・相手から求められていることを理解し、即興で自分の気持ちや考えを述べるができるよう、既習事項を繰り返しながらスモールステップを踏む授業展開の推進  
・子どもたちの「英語で伝えたい」という気持ちを大切に、言語活動後に「英語が伝わった時の喜び」を感じられ、それが次の「英語で伝えたい」という気持ちにつながるような授業を実施していく。

# 令和7年度 横浜市 英語教育改善プラン

## 「英語を活用しながら、多様性を尊重し、国際社会で協働・共生できる人材の育成」

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合  
(R6 : A2以上 89%、B1以上 67% ⇒ R7 : A2以上 98%、B1以上 56%)

### 目標

言語活動  指導と評価の一体化  教師の英語力・指導力  校種間連携  ALTの参画  ICTの活用  AIの活用  その他  
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

### 1. 目標に対する現状

#### 改善が進んだ点

- ①生徒の英語力の上昇  
(グローバルに活躍することが期待される層  
(CEFR B1レベル相当以上)の拡充)  
(R5:56%⇒R6:67%)
- ②授業における、生徒の英語による言語活動の割合が増加  
(R5:76%⇒R6:78%)

#### 未だ改善が必要な点

- ①英語担当教員の授業における英語使用状況が全国平均に比べて低く、特に普通科の学校で低くなっている。  
(R5:42%⇒R6:38%)
- ②CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する教員割合の低下  
(CEFR B2レベル相当以上  
R5:93%⇒R6:70%)

### 2. 要因分析

- ①外部試験受験を通じて生徒自身が英語力の現状や課題を具体的に認識する機会を得たことで、学習意欲が高まったと考えられる。
- ②生徒が言語活動に取り組めるような授業づくりの在り方について、研究会等とも連携し、教員の指導力向上を図ったことで、生徒の英語による言語活動の割合が増加したと考えられる。

- ①授業において、文法知識の定着に重点が置かれすぎており、英語による説明や発問、課題提示など、生徒が理解できる英語を用いた指導の工夫が十分に図られていないことが一因と考えられる。
- ②教員が客観的に自分の英語力を把握できていないことが一因と考えられる。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

- ①生徒が言語活動に取り組める授業実現
  - ・AETの全校(複数)配置
  - ・外部指標(実用英語技能検定の実施)による生徒自身の学習改善と教員の指導改善
  - ・AI活用による個別学習強化(発話練習・フィードバック機能の導入)
- ②身に付けた英語を活用する機会の推進
  - ・English Day Camp、Practical English(横浜市大との連携)、国際スポーツ大会、会議での英語ボランティア活動
  - ・姉妹都市交流等国際交流の推進・国際局と連携した国際交流機会の提供(TICAD関係・姉妹都市周年行事など)
  - ・海外大学進学支援プログラム・横浜SGHの取組  
(参考URL : <https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/global/>)
- ①言語活動に関する研修及び好事例の発信
  - ・教員の理解を深めるため、教育課程研究委員会の活動を通じた研究授業の実施
  - ・各校の工夫を共有するため、外国語部会のクラスルームに保存し、指導力向上に活用
- ②生徒の英語力向上をさらに促進するため、教員の英語力向上を支援し、指導力強化を図る
  - ・外部試験の受験推奨
  - ・英語力向上のための研修の周知徹底・受講奨励

横浜市教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	98	93.9	98	88.8	98		98		98		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	52	55.7	56	66.9	56		56		56		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	90	75.6	90	77.5	90		90		90		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	45	51.2	52	50.0	52		52		52		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	62.5	100		100		100		100	
		公表(%)	100	50	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	25	100		100		100		100	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	85	92.6	90	70.1	90		90		90			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	90	41.5	90	37.5	90		90		90			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	68	67.2	68	65.4	69		70		71		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	90	74	80		80		83		85		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	80	61	80		80		83		85		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	75.3	80		90		90		100	
		公表(%)	80	51.4	60		70		75		80	
		達成状況の把握(%)	80	54.8	60		65		70		80	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	60	58.3	60	60.1	60		60		60		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	70	66.4	70		72		75		80			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	80	46.6	60		70		75		80
		公表(%)	55	20.3	50		60		62		65
		達成状況の把握(%)	60	37.9	50		60		62		65